

第13回

らくぶん 楽文コンテスト

各賞受賞作品発表!!

君が大好きなこと

君の家族のことや友達のこと、
 大好きなお祭や夢中になっている事。
 いろんな君の『大好き』を教えてください。
 詩・作文・歌、君にあった方法でかまわない。
 一行でも、誤字・脱字、
 ぜんぶひらがなでもOK。
 じょうずじゃなくても。
 そう、「楽文」でいいんです。



- ◎主催 **博多の風**
- ◎特別協賛 **docomo**
- ◎協力 博多祇園山笠振興会、(株)毎日新聞社、RKB毎日放送(株)
- ◎選考委員 瀧田喜代三氏(博多祇園山笠振興会 会長)
 岩松 城氏(毎日新聞社 西部本社 編集局長)
 永守良孝氏(RKB毎日放送 代表取締役会長)
 沢田幸二氏(KBC九州朝日放送 パーソナリティ)
 大庭宗一 (NPO博多の風 理事長)
- ◎協賛 西部ガス(株)、西日本鉄道(株)
- ◎後援 福岡市、福岡市教育委員会、福岡商工会議所
 (社)九州経済連合会、(株)岩田屋三越、九州電力(株)
 九州旅客鉄道(株)、(株)九電工、コカ・コーラウエスト(株)
 (株)西日本シティ銀行、NTT西日本福岡支店、(株)福岡銀行
〔順不同〕

第35号 平成25年11月発行

近年の活動

※設立からの詳細はホームページをご参照ください
http://hakanokaze.jp

平成24年

- 4月 第28回 NPO博多の風フォーラム 開催
講師:松本卓士氏(RKB毎日放送報道部記者)
- 5月 第21回 はかたの町クリーン作戦 実施
- 6月 第11回 追山コース探訪 開催
第12回 楽文コンテスト 開催
- 10月 第22回 はかたの町クリーン作戦 (雨天中止)
- 11月 第29回 NPO博多の風フォーラム 開催
講師:岩松 城氏(毎日新聞西部本社編集局長)

平成25年

- 4月 第30回 NPO博多の風フォーラム 開催
講師:前田 敦氏(西南学院大学法学部准教授)
- 5月 第23回 はかたの町クリーン作戦 実施
- 6月 第12回 追山コース探訪 開催
第13回 楽文コンテスト 開催
- 10月 第24回 はかたの町クリーン作戦 実施
- 11月 第31回 NPO博多の風フォーラム 開催
講師:松本 龍氏(元環境大臣)

NPO博多の風の歩み

- 設立
平成10年 9月
任意団体『博多の風』設立 代表:大庭宗一
- NPO登記
平成12年 6月
『NPO博多の風』として登記 理事長:大庭宗一

NPO博多の風事業概要

- 啓発事業
・博多の風フォーラム開催
・広報誌・HP発行
・毎日新聞世論フォーラム公聴
・作文コンクール(楽文コンテスト)開催
- 地域環境向上事業
・博多の町親交
(清掃活動クリーン作戦・冷泉小学校跡地提言・山笠文化継承)
- 活性化事業
・書籍出版
・博多祇園山笠の振興
・追山コース探訪開催
- 協力事業
・各市民団体との情報交換及び支援

NPO特定非営利活動法人



〒812-0027
福岡市博多区下川端町8-16 -302
FAX 092-263-7188

E-Mail info@hakanokaze.jp
URL http://hakanokaze.jp



君の好きなこと

●三筑中学校1年

後藤 早起

は、1人でも行けるようになりまし。さざんびあだけでなく、春日市にある図書館にも行っていました。そこは、弟の習い事の場所の近くで母さんが弟を見ている間に行っていました。公共の図書館だけでなく、小学校の図書館にもたくさん通いました。公共の図書館とは違って身近で温かい雰囲気でも落ち着きました。だから中休みや昼休みの暇な時には、必ず行っていました。

そして、今年4月。私は、新しい図書館と出会いました。中学校の図書室です。中学校の図書室は、小学校の図書室とは違い、本がとても分厚いことに驚きました。分厚いけど中学校の本は、面白い本ばかりで図書室に行くことがすごく楽しみにになりました。以上の四つが私が本のことが大好きになったきっかけです。本は、私達に色々なことを教えてくれます。嫌いとか言う人もいるけど、少しでも魅力を感じて、面白って思っってほしいです。本は、私にとって大切な物で、これからは色々な本と出会うと思います。その一冊一冊を大切にしていきたいです。

私と習字

●原北中学校1年

松延 百花

私が大好きな事、それは習字です。その中でも最近始めた行書です。行書は、字のつながりがしつかり表われて書いている時、とても気持ちがいいです。

習字を習い始めたのは、小学二年生の三学期頃です。始めたきっかけになったのは、祖父に勧められたからです。祖父は近くに住んでいて、いつも習い事の送り迎えや、食事など、私たち兄弟のために色々してくれます。

ある時、祖父に「字は、一生使うものできれいなほうがいいよ。」と言われました。三年生から学校で、習字も始まるので、なんとなく習ってみしました。

すぐには、正座や筆で書くのはなかなかできなかつたけど、そのうちにだんだん慣れていきました。どんどん級が上がっていくのに楽しさが沸いていきました。ついに、段にも上がりました。でも、それから何度も上がらない事が続いていきました。今まで上がっていったのが急に止まっていたので、もうダメなのかなとあきらめかけた事がありました。そんな時、家族が「段になったんだから、上へ行けば行くほど難しくなるんだよ。」と励ましてくれました。それから、またがんばって、

好きな部活ハンドボール

●原北中学校1年

西野 愛子

捨てない限り形に残るので、言葉には注意しなくてはいけません。きずつけるつもりはなかつたとしても、そういう文章になっていたらいけないので、言葉を選んで書いたり、何回も読み直したりすることをお勧めします。ここに、手紙しかできないことがあるのを、気づきました。どうするか。言葉は、言ってしまったらもう戻ってきません。もちろん心の中心に良い言葉も残りますが、悪い言葉も残ります。けれど手紙は、冷静に書くこともできますし、読み直す、考え直すこともできます。私はこういう手紙の良さも好きです。

このように、私は手紙を書くことで、だんだん良さが見えてきて、どんどん好きになります。普段伝えにくいことを、言葉に気をつけて伝えたり、遠く離れた人に色々なことを聞けたり、言葉によって、人に元気を与えられる、そんな手紙はとても好きです。すてきです。これからは、注意点を気をつけながらも手紙を書いて、もっともっと大好きになりたいです。

サッカー

●舞鶴中学校2年

竹下 純太郎

僕が、好きなことは「部活動」だ。理由は、部活動は、同じ学年のメンバーや先輩、後輩という関係の中で、はげまし合い、なにかも忘れて一生懸命活動できるからだ。僕は、中学一年の時から、サッカー部に所属している。

僕は、サッカーを習っていたこともなく、入部した時は一番下手で先輩のプレーを見るのと、いつも、「すげえ。自分もあんなプレーしてみたい。」と思っていた。もちろん、試合にも出られなかつたので、練習は毎日休まず、全力で頑張った。土日の練習では、集合の三十分前には、学校に着き、自主練をしていた。練習の後は、急いで片づけを始めて、自分より上手な人より何倍も動いた。

そんなふうにも練習していても、きついかめんどくさいとか一度も思わなかつた。むしろ、とても楽しかつたし、どんどんサッカーが好きになっていった。そして、三年生がいなくなり、ユニフォームももらって試合にも、出られるようになった。やつぱり、試合と練習は全然違つた。最初の方は、あわててよく相手にパスをしていた。動きも変わり、とても難しく感じた。サッカーは、頭を使うゲームで、頭の悪いやつはできないと、よくコーチが言っていた。

NPO博多の風賞

●照葉小学校6年

帆足 香凜

私が一番しあわせを感じるの、お父さんとお母さんが休みの日です。三年生の時、お母さんとお父さんに手紙をもらいました。その手紙には、「産まれてきてくれてありがとう。仕事が忙しくてごめんね。でも帰って来たら『お帰り』と言つて玄関に走って来てくれるのがとってもうれいす。」と書かれてありました。私、これが大切な宝物です。

私のお父さんとお母さんは、土曜日や日曜日、祝日に毎回休めないで、なかなか家族三人で遊びに行けないけれど、平日に休みだったら、早く帰ろうとか、今日は友だちと遊ばないで、おこうとか思つたりします。

短い時間だけど、起きてから学校や仕事に行く前や、仕事から帰って来てから寝るまで、かけがえのない時間です。土曜日とか日曜日とかに休みがとれたら、どこに行かなくても何をしなくても楽しくて幸せに感じます。きつとそのときがだれよりも一番幸せだと自信を持って思えます。夏休みにお父さんがマラソンから帰ってきたとき、熱中

症で倒れてしまいました。そのときは、とつてもこわかったです。このまま死んじやうんじやないかと、余計なこどばっかり考えて、パニックになりました。

ひと一倍家族の時間がしあわせで楽しいって感じるからひと一倍心配で、こわくなるんだとそのとき思いました。これからまた、こんなことにこんな気持ちになりたくないから、これからは、お父さんお母さんをひと一倍幸せにして、ひと一倍親孝行をしてあげたいと思います。いつもはなかなか言えないけれど、「ありがとう」を今日は言うてみようかなあつて思いました。

死ぬまでサッカー

●松崎中学校1年

井上 創太

これがないと生きていけない。そう思えるものが僕にはある。それは、一つのボールをゴールに入れた数で競う、そう、サッカーだ。

僕がサッカーを始めたのは幼稚園の年長の頃で、なぜサッカーを習おうと思ったかは覚えていないが、その時から僕はサッカーを存分に楽しんでいたと思う。だから、今もサッカーを続けられている。

ただ、サッカーを辞めたいと思ったことは過去に何度かある。暑い中練習するのがイヤ、

ヤ、走るのがキツイ。僕の停滞が訪れるのは、そんな時だった。こんなに頑張っているのになかなか上手くなれない、試合につかってももらえない。そうなると、仲間からのパスをあまり欲しがらず、「ミスをしたらどうしよう。」と考えてしまい、ついにボールから逃げてしまうようになり、おまけに宿題がおそろそかなり、睡眠時間も短く、自由な時間も無い。そんな時、つい母親に愚痴ってしまう。すると母は決まって、「そんなにキツイなら辞めればいいじゃん。」

と言い、全く相手にしてくれない。なぜなら、母は、僕がサッカー無し的人生を歩めるはずがないことを知っているからである。

どうして僕は、サッカーを辞められないのだろうか？こんなにキツくて辛いのに。それはきつと、その「キツイ」の先に本当の楽しさがある。そして、ほんの少しの勇気でその楽しさを存分に味わうことができると思は信じているからだと思う。

こんな僕は母から「サッカーバカ」と呼ばれている。もしかしたらこれは、いわゆる「サッカー依存症」というものなのか？

例えば、こんなことがあった。二泊三日の旅行に行ったが、退屈で退屈で、頭はサッカーの事ばかり。二泊三日の旅行の予定が、僕のせいで、一泊二日になってしまった。そのことに対して、母はそう

私が好きないよ

●香椎第3中学校1年

竹野 百花

私が好きなのは、料理をすることです。

初めて作ったものは、ホットケーキです。一から十までしたわけではありません。三才だったからです。その時、ホットケーキをひっくり返そうとしてフライパンが足に落ち、やけどをしてしまいました。あまりにも痛く、泣いていたけれど、母が作っているのを見て、やっぱりもう一度作ろうと思いました。

でも母は少し反対しました。だから、私は父にたのみ、作らせてもらいました。少しぐちゃつとなったけど、すごくおいしくて、母にもほめられました。

それから次は、みそしるを母と一緒に作って、一人でも作れるようになりました。

あの時、父がホットケーキを作らせてくれたから料理が好きになったし、うまくなつたと感謝しています。

今では、たまご焼きをよく作るからあきてきそうになり、ゆずこしようをいれたり、時にはマヨネーズ、ネギを入れたりし、工夫できるようにになりました。

そして、カボチャチーズという新しいレシピも作りました。私はいまいちだったけど、家族は「おいしいよー。」とほめてくれて、うれしかったです。

時には、母が留守にする日

「お母さんが作ったハンバーグよりおいしいよー。」と驚いて言いました。

私はうれしくて、もつといろんな人に喜んでもらえるような料理をいっぱい作れるようになりたいと思いました。

そしてまだ、単品しかつくったことがないから、一食分の献立を考えて、バランス良い食事をみんなに作ってあげたいと思います。

でもそのためには、自分の好ききらいをなくさないといけないし、いろいろなレシピを知れないなと思ひました。そして、コツをつかんで、上手に手早く作れるようになりたいと思ひました。

私は、具材を切ったりするのも混ぜたりするのもすぐく好きだけど、やっぱり、食べにくれる人が喜んで、「おいしい。」「すごい。」「上手だねえ。」と言ってくれることが一番うれしいと思ひました。

「日焼けしたね。」最近、私がよく言われる言葉である。私は、この言葉を言われるのが、あまり好きじゃない。この言葉をよく言われる部活といえは、テニス部だ。

三年の先輩達が卒部して、新チームになった。今までの練習の仕方が全て変わり、今は「基礎中の基礎だ。」と先生は言っている。基礎でもきつと辛い。もう真つ黒こげになりそうな状態である。だけど、良いことがある。体力がついていることだ。毎日、校舎周りを五周走り、その後は二十分間走る。二十分という時間はテニスの一試合のだから、この時間で、一試合走れる体力をつけるためにやっている。走った後のお茶がすごくおいしく感じる。スポーツドリンクだったらもつとおいしい。水のありがたさが一番

私が夢中になっっていること

●香椎第3中学校1年

平嶋 遥花

「日焼けしたね。」最近、私がよく言われる言葉である。私は、この言葉を言われるのが、あまり好きじゃない。この言葉をよく言われる部活といえは、テニス部だ。

三年の先輩達が卒部して、新チームになった。今までの練習の仕方が全て変わり、今は「基礎中の基礎だ。」と先生は言っている。基礎でもきつと辛い。もう真つ黒こげになりそうな状態である。だけど、良いことがある。体力がついていることだ。毎日、校舎周りを五周走り、その後は二十分間走る。二十分という時間はテニスの一試合のだから、この時間で、一試合走れる体力をつけるためにやっている。走った後のお茶がすごくおいしく感じる。スポーツドリンクだったらもつとおいしい。水のありがたさが一番

どう呆れていた。つい最近、こんなこともあった。サッカーの練習中に肉離れを起こしてしまい、医者から暫く休むようにと言われたので、その日一日は、おとなしくしていたが、次の日には禁断症状が出て、結局、練習に参加してしまつた。これには母も、ほとほと呆れていた。

母はぼくのことをバカというが、母の「チョコレート依存症」のほう異常だと思ひ顔に吹出物をつくって、その度に後悔をして、それでもやめられない母親。僕の方こそ見ていて呆れてしまう。

「サッカー依存症」の何が悪い。「サッカーバカ」と言われても構わない。僕はサッカーが好きなのだ。本当に本当に大好きなのだ。絶対、死ぬまでサッカーを続けたい。

「物語」に入りこんで：

●香椎第3中学校1年

杉山 萌愛子

物語。それは私が小さい頃から大好きなものだ。ページをめくるたびに待っている感動。ハラハラドキドキ、胸を高鳴らせながら続きを読む楽しさ。そんな物語の魅力に、私は引き込まれていった。

「お会計 八百六十円になります。」

本屋のレジでお金を払う。袋に入れられて渡される本。この瞬間から私のワクワクが始まる。

「物語」に入りこんで。このひとときの読書タイムが最高に楽しい。夢中になりすぎて相当時間がたっていることも多い。それだけ物語にはたくさん魅力がまつていると私は思う。

たくさんある物語の魅力の中でも、特に私が「これこそ物語の一番の魅力だ。」と感じる、私の心をつかんで離さないもの。それは「読んでるうちに、周りが輝いているように感じる」という魅力である。物語の情景を思い

感じるときである。また、学校の登下校が楽に感じるようになってきた。これは、体力がついた証拠だと思ひ。体力がついてくるのが楽しみになってきた。

もう一つの良いことは、打つことが上手になつてきたことだ。打つことが上手になると楽しくなるし、面白くもなつてきた。また、打つコツもつかめるようになり、どのようになれば、打てるのかと考えるようにもなつてきた。打つ時が、一番楽しいと実感できる。

私は、部活を頑張っている理由は、ある目標を持っているからだ。それは、「三年の先輩を超えること」だ。三年の先輩は、この夏の中体連で団体区大会三位という結果を残した。プレーは迫力があつて、歓声もすごかつた。私は、「自分も、感動のあるプレーをしたい。」という気持ちを持つた。

だけど、三年の先輩を超えることは難しい。先輩達は、私達より、もつときつかつたはずだ。確実に、今より上達しなれば、記録は残せない。また、今の段階で辛かつた。り、きつかつたりすると、次の段階では、もつときつくなると。だから、きついや辛いという言葉ではなく、「頑張ろう」などの前向きな言葉に変えていきたい。

私には、あこがれる先輩がいる。その先輩は、ボールが速くて、私が審判している時、目におえないくらい速さだ。そして、気持ちがとても強い

浮かべながら読むのがとても楽しくて、読み終わったとき自分も主人公になつたような気持ちになつて、何事も楽しそうに見えてくる。気持ち落ち込んでいるときでも、物語の世界にいつとき入り込んでしまえば、明るい気持ちになれる。輝きを失つたように見える世界が、たちまちキラキラと輝く楽しい世界になつたように感じる。これは物語の「魔法」なのかもしれない。この「魔法」に、私は何回救われてきたのだろう。物語は、私を支えてくれる大切な存在でもある。

小さい頃からずっと一緒に読んだ物語。私を支えてくれる物語。そんな物語は私の宝物であり、今まで読んできた物語は私の大きな財産だと思ひ。これから先もずっと、おばあちゃんになつても、物語のキラキラした世界を楽しんでいきたい。最後に物語に言いたいことが一つある。

「物語よ、ありがとう。そしてこれからもよろしくね。」